

平成28年度
文化アセスメント
実施結果報告書

2017（平成29）年9月
川崎市文化芸術振興会議

平成29年9月21日

川崎市長 福田 紀彦 様

川崎市文化芸術振興会議
会長 澤井 安勇

平成28年度文化アセスメント実施結果の報告について

川崎市文化芸術振興会議より、川崎市文化芸術振興条例第8条に規定された文化アセスメントについて、平成28年度の実施結果を報告します。

文化アセスメントは、市民生活の充実やまちづくりの進展に向けて取り組まれている「第2期川崎市文化芸術振興計画」上の重要な事業を選び、それらの事業の取組内容について実地に視察・確認を行いながら、事業の目的、文化芸術性、市民とのかかわり及び効率・効果等の視点から、当該事業が有効かつ適切に実施されているかを総合的に検証し、さらに目的達成のため改善すべき方向性などについて文化政策的提言を行うものです。

近年、市民個人を含め社会全体が文化芸術の担い手であるという認識のもと、文化芸術事業の実施については、地域の行政と市民、企業、団体などが幅広く連携しながら地域の特性を生かした文化芸術振興を図ろうとする事例が増えています。また、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、日本の芸術文化への内外の注目度も高まってきていることから、地域からの特色ある文化芸術の発信に期待が寄せられています。川崎市には多様な文化団体や大学など豊富な文化資源を形成する主体が多数存在しており、こうした主体と連携しながら川崎ならではの文化芸術活動を育成していくことが、心豊かで魅力的な地域づくりに繋がるものと思われまます。

今回の文化アセスメントの対象については、映像関連団体、企業、行政で組織され、川崎市内の映像に関連した様々な取組を実施・支援する「『映像のまち・かわさき』推進フォーラムの取組」を、また、「音楽のまち・かわさき」の新たな取組として、川崎ならではの音楽文化を発信するジャズフェスティバルである「かわさきジャズ」を選定しました。その評価作業については、川崎市文化芸術振興会議の委員が手分けして個々の公演や事業、また、施設の活用状況等を視察し、事業関係者、担当行政部局等からのヒアリングおよび意見交換なども実施しながら調査を進め、全体討議を経て、最終的に委員全員の合意により評価書を作成したものです。限られた時間と人的体制の中で実施されたものであり、個別には意を尽くせなかった部分も残りましたが、全体としては現時点で作成しうる最善の結果報告であると考えますので、この報告が川崎市における今後の関連施策に適切に反映されることを期待いたします。

平成28年度文化アセスメント実施結果報告

1 対象事業及びその選定理由

A 「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの取組

「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの取組については、第2期文化芸術振興計画の基本目標1施策1「文化芸術を活かしたまちづくりの推進」に該当する事業であり、本市の映像資源を活用した取組により、まちの魅力を高め、映像文化の振興、映像産業の発展に加え、次世代の映像文化を担う子どもたちの育成などへの貢献が期待される事業であるため。

B かわさきジャズ

かわさきジャズについては、第2期文化芸術振興計画の基本目標3施策2「市民が身近に文化芸術に触れる機会の提供」に該当する事業であり、各種プログラムの実施を通して、市民が気軽に音楽を楽しむことができる環境を提供するとともに、さまざまな出会いと交流機会の創出や、まちの賑わいづくりなど、音楽によるまちづくりと、国内外に向けた川崎の魅力発信が期待される事業であるため。

2 評価結果

A 「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの取組

(1) 事業の目的・概要

担当課	市民文化局市民文化振興室
振興計画上の位置づけ	基本目標 1 文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり 施策 1 文化芸術を活かしたまちづくりの推進
事業概要	「映像のまち・かわさき」推進フォーラムは、映像関連団体、企業、行政で組織されており、川崎市内の映像に関連した様々な取組を実施・支援している。
目的	「映像のまち・かわさき」推進フォーラムへの参加者が相互に連携し、川崎の魅力を効果的に発信することで、まちの魅力を高め、映像文化の振興、映像産業の発展に加え、次世代の映像文化を担う子どもたちの育成を目指す。

取 組

番号	名 称	概 要
A	「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの取組	<p>概要 <各事業の概要></p> <p>1 人材育成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期映像制作授業：小学校4校と中学校1校で実施し延べ527人が参加 ・短期映像制作授業：小学校と中学校各1校で実施 ・映像ワークショップ 他 <p>2 地域連携・活性化事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化イベント：シネマカフェ、しんゆり映画祭×ゆめシネマ上映会連携支援 ・地域イベント：「映像のまち・かわさき」フェスティバル 他 <p>3 情報発信・収集事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HP、広報物による情報発信 ・その他：映画「シン・ゴジラ」の公開と連動した市全域での共同プロモーション展開

(2) 評価

取組への評価

A 「映像のまち・かわさき」推進フォーラムの取組

(1) 事業の目的（設定の妥当性、達成度、達成手段の妥当性）

近年、インターネット環境の向上やスマートフォンの普及など、映像を取り巻く環境が大きく変化し、映像はより身近に多様性をもって市民の生活に浸透している。そうした中で本事業は、本市の豊富な映像資源を活用し、都市イメージの向上や地域活性化、映像文化の振興、映像産業の発展に加え、次世代の映像文化を担う子どもたちの育成を目指した事業を展開しており、社会情勢に即し、かつ文化芸術振興計画の基本目標の1つである「文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり」に貢献していると評価できる。

本事業ではこの目的を達成するため、事業者や関係団体と連携した取組により、人材育成、地域連携・活性化、情報発信・収集と多面的な事業展開が行われ、多くの市民が参加しているところである。しかしその一方で、限られた財源のもとでより効果的に事業目的を達成するためには、多様に展開されている事業が推進フォーラムとしての目的に沿ったものとなっているかどうかの検証が必要である。

(2) 文化芸術性（独創性、育成支援）

各事業において、推進フォーラムを構成する企業や団体、他にも映画監督やNPO法人などの協力を得て実施したり、これまでのロケ地誘致の取組の成果といえる「シン・ゴジラ」のロケを契機とした事業を展開したりと、各事業で映像資源を活用した、本市ならではの取組が行われていると評価できる。

また、映像制作授業では実施した学校からの報告書等により、映像制作に関する能力の向上に加えて、主体性の向上やグループでコミュニケーションを図り物事を進めることの大切さや能力の向上が効果として挙げられており、次世代の映像文化を担う子どもたちの育成という目的に加えて、映像を読み解く力、コミュニケーション能力や問題解決力の向上など、多面的な効果をもたらしていると評価できる。

しかし、長期映像制作授業は総合学習の時間だけでは終わらないなど学校側に負荷がかかり着手しづらい面がある。また報告書は学校によって記載内容にばらつきがあり、効果やニーズを把握しきれていない。事業をより効果的なものにするため、実施内容や効果の把握について工夫が必要である。

(3) 市民とのかかわり（参加、満足度、周知度）

「映像のまち・かわさき」フェスティバルや「シン・ゴジラ」との連携イベントなどを中心に、幅広い世代の市民が数多く参加している。

また映像制作授業では、コミュニケーション能力や問題解決力の向上など、子どもへの教育的効果が認められ、実施した学校では継続実施の意向を持っているなど、満足度は高いものと評価できる。

しかし市民アンケートによれば、ドラマ等の撮影の誘致の取組は評価されている一方で、「映像のまち」の取組としての認知度はまだ低い状況にある。学校での映像制作授業やワークショップの実施校数を増加させたり、「映像のまち・かわさき」フェスティバル等の市民を対象としたイベント事業を効果的に実施することで、「映像のまち」の取組をより浸透させていくことが必要である。

(4) 効率・効果（波及効果、施設の利用管理、連携協働、費用の効率化）

映像制作授業では実施した学校での評価を聞いて別の学校から実施希望が出されるなど、実施校数が少ない中ではあるが波及効果が認められる。また施設の利用については、各事業の内容に合わせて適切な会場が選択されている。

推進フォーラムは関係企業、団体、学校法人など多様なメンバーにより運営されており、事業実施にあたっては、推進フォーラムの構成メンバーのほか、市観光協会や大型商業施設などの協力を得て行われるなど、地域での連携が図られているところである。

一方、現在は事業費の大部分が市の補助金で賄われており、限られた予算で効果的に事業を展開するためには、事業実施や広報など各場面においてより多くの企業・団体の協力を得ながら進めることが必要である。

総合評価	<input type="checkbox"/> A : 継続 <input checked="" type="checkbox"/> B : 改善 <input type="checkbox"/> C : 見直し
<p>評価の理由等</p> <p>近年、インターネット環境の向上やスマートフォンの普及など、映像を取り巻く環境が大きく変化し、映像はより身近に多様性をもって市民の生活に浸透している。そうした中で、本市の豊富な映像資源を活用し、事業者や関係団体との連携により、都市イメージの向上や地域活性化、映像文化の振興、映像産業の発展に加え、次世代の映像文化を担う子どもたちの育成を目指した本事業の取組は、社会情勢に即し、かつ文化芸術振興計画の基本目標の1つである「文化芸術や地域の特性・資源を活かしたまちづくり」に貢献していると評価できる。</p> <p>事業は人材育成、地域連携・活性化、情報発信・収集と多面的に展開され、人材育成事業では次世代の映像文化を担う子どもたちの育成という面だけではなく、コミュニケーション能力や問題解決力の向上といった教育的な効果ももたらしている。イベント系の事業では多数の市民が参加し、こうした取組により、「映像のまち・かわさき」の取組が市民に浸透するとともに、川崎の魅力を広く発信することに繋がるものと評価できる。</p> <p>今後、事業効果を更に高めていくためには、より多くの市民や団体の参加を促すとともに、より効果的に「映像のまち・かわさき」の取組を伝えるための方策や、事業効果の把握とフィードバック、関係団体等との一層の連携・協力といった取組が必要である。</p>	
<p>提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像制作授業について、より簡易な機材や短期間で実施可能なメニューを拡充するとともに、事業の効果や現場の意見・ニーズをよりの確に把握するため、学校側への意見聴取の方法を工夫し、把握した意見等を今後の実施内容により一層フィードバックさせていくことが必要である。 ・映像制作授業やワークショップの実施校数の増加に向けて、学校側への説明の際に、これまで実施した学校での効果を伝えたり実施の様子を映像で紹介するなど、事業のイメージをより効果的に伝えるための工夫が必要である。 ・「映像のまち」の取組の浸透に向けて、「映像のまち・かわさき」フェスティバル等のイベント系事業について、多数の市民の参加を図るとともに、参加者に「映像のまち」の取組であることが明確に伝わるよう、展示内容等に工夫が必要である。 ・事業費の大部分が市の補助金で賄われており、限られた予算の中で効果的に事業を展開するためには、事業実施や広報など各場面において多くの企業・団体の協力を得ながら進めるとともに、多様に展開されている事業が推進フォーラムとしての目的に沿ったものとなっているかどうかの検証が必要である。 	

B かわさきジャズ

(1) 事業の目的・概要

担当課	市民文化局 市民文化振興室
振興計画上の位置づけ	基本目標3 市民が文化芸術に触れる環境・活動できる環境の整備 施策2 市民が身近に文化芸術に触れる機会の提供
事業概要	「音楽のまち・かわさき」の新たな取組として、「多様性」と「コラボレーション」をテーマに、川崎らしさにこだわり平成27年にスタート。国内外のトッププレイヤーによる音楽公演プログラムや、地域で活動する団体等と連携して開催する数々のフリーライブ、地元企業等とのコラボレーション企画などの地域連携プログラム、音楽を楽しむ人や若手アーティスト等の育成を目指す人材育成プログラムの3つのプログラムを柱に開催。
目的	各種プログラムの実施を通して、さまざまな出会いと交流機会の創出や、まちの賑わいづくりなど、音楽によるまちづくりと、国内外に向けた川崎の魅力発信を目的とする。

取 組

番号	名 称	概 要
B かわさきジャズ	かわさきジャズ	<p>概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽公演プログラム：市内6会場で、国内外のトッププレイヤーによる音楽ライブを開催 ・地域連携プログラム：プレ期間から、地域を拠点に活動する多彩なプレイヤーによるフリーライブを市内各所で実施 ・人材育成プログラム：ワークショップや学生によるステージ、キッズ向けの企画など、川崎から音楽を発信する人、川崎で音楽を楽しむ人を応援するプログラムを実施 <p><全体の実施結果> 実施期間：平成28年11月11日(金)～11月20日(日) (プレ期間：平成28年9月15日(木)～11月10日(木))</p> <p>会場：市内各地53か所、88ステージ 来場者数：24,954人(音楽公演プログラム：5,811人、 地域連携イベント：18,222人 他)</p>

(2) 評価

取組への評価

B かわさきジャズ

(1) 事業の目的（設定の妥当性、達成度、達成手段の妥当性）

本事業は地域の資源を最大限に活かした川崎ならではのジャズ・フェスティバルとして、まちなかや身近な場所において市民が気軽に音楽を楽しむ環境を提供するとともに、さまざまな出会いと交流機会の創出や、まちの賑わいづくりなど、音楽によるまちづくりと、国内外に向けた川崎の魅力発信を目的とした事業を展開しており、文化芸術振興計画の基本目標の1つである「市民が文化に触れる環境・活動できる環境の整備」にも貢献していると評価できる。

事業内容は音楽公演、地域連携、人材育成の3つのプログラムで構成され、トッププレイヤーによる公演から地域で活動するプレイヤーによるフリーライブ、ワークショップといった参加型の企画など、目的に合致した多様な企画が展開されていると評価できる。

来場者数は事業開始時の目標や昨年度の実績を上回り、また市内だけではなく横浜や東京など市外からの参加者も数多くみられている。その一方で、音楽公演プログラムについては15公演（人材育成を含む）全体の来場者率は63%と向上させる余地があるため、公演の一層の周知や公演内容に応じた適切な会場の選定などの取組が必要である。

(2) 文化芸術性（独創性、育成支援）

「多様性」と「コラボレーション」をテーマとして、「ジャズは橋を架ける」を合言葉に、地域の資源を最大限に活かし、プレ期間も含めると約2か月間という長期間にわたり市内各所でイベントが開催されるなど、他都市で行われているジャズ・フェスティバルとは異なる、川崎ならではの特色を打ち出すことができている。

人材育成プログラムではジャズアカデミーやトップアーティストとのコラボレーションによる学生のステージ、親子向けの企画などが実施されており、またアカデミーや公演等の会場ではボランティア活動も行われている。こうした取組は音楽の裾野の拡大やレベルの向上に繋がるものであり評価できる。

一方で、ジャズアカデミーについては参加者の年齢層に偏りが見られたり、また一部の親子向けの企画では演奏する曲目が客層に合っていないなどの状況が見られたことから、より一層の参加の拡大と効果の向上に向けた取組が必要である。

(3) 市民とのかかわり（参加、満足度、周知度）

企画運営に当たっては、実行委員にジャズの愛好者団体の代表が加わるなど、地域で活動する市民も一体となった体制がとられている。また、企画内容についても有料の音楽公演だけでなく、各所でフリーライブや公募によるライブが実施され、演じ手、聞き手双方が広く参加できる取組が行われている。さらにジャズアカデミー、音楽公演、公募型フリーライブの会場において、広報物の配布や公演の運営などのボランティア活動も行われており、こうした取組は評価できる。

参加者は市内に限らず横浜市や東京都からも訪れるなど、一定の地域的な広がりが見られ、またアンケート結果などを見ても満足度の高さが伺える。

一方で、参加者について市内では地域でのばらつきが見られており、参加の一層の拡大に向け、地域連携イベントの拡充やSNS・口コミによる発信・拡散などにより、事業についてさらに広く周知していく必要がある。また、ジャズ愛好者だけではなく幅広い市民にジャズの魅力を発信するとともに、公演の出演者やジャズに関する知識がない人でも公演に参加しやすくし、公演に対する満足度を高めるため、運営方法や周知方法を工夫する必要がある。

(4) 効率・効果（波及効果、施設の利用管理、連携協働、費用の効率化）

地域で活動する団体等と連携して多様な企画が展開されており、音楽によるまちづくりに大きく寄与している。また、トップアーティストとのコラボレーションに参加した音楽専攻の学生のモチベーションを大きく向上させるなどの効果も見られるところである。

施設については、音楽ホールはもちろん、区役所や駅前広場、公園、商業スペースなど全体では市内各地53か所でイベントが開催されており、市内の施設が有効活用されている。

企画運営は学校法人、関係団体、企業、ジャズの愛好家団体など多様なメンバーで行われ、実施段階でも地域や区役所との連携が十分に図られている。

費用面については、市民が音楽を気軽に楽しめる環境の提供や地域の賑わいといった、事業全体の趣旨を考慮しつつも、音楽公演プログラムについては、事業収入や協賛金、広告収入等を上げるための更なる取組が必要である。また広報についても、費用対効果を考慮したより効果的なものとするための工夫が必要である。

総合評価	<input type="checkbox"/> A : 継続 <input checked="" type="checkbox"/> B : 改善 <input type="checkbox"/> C : 見直し
<p>評価の理由等</p> <p>本事業は地域の資源を最大限に活かした川崎ならではのジャズ・フェスティバルとして、まちなかや身近な場所において市民が気軽に音楽を楽しむ環境を提供するとともに、さまざまな出会いと交流機会の創出や、まちの賑わいづくりなど、音楽によるまちづくりと、国内外に向けた川崎の魅力発信を目的とした事業を展開しており、文化芸術振興計画の基本目標の1つである「市民が文化に触れる環境・活動できる環境の整備」にも貢献していると評価できる。</p> <p>「多様性」と「コラボレーション」をテーマとして、音楽公演、地域連携、人材育成の3つのプログラムという事業目的に合致した多様な企画が展開され、参加者は事業当初の目標や昨年度の実績を上回っている。</p> <p>企画運営は学校法人、関係団体、企業、ジャズの愛好家団体など多様なメンバーにより行われ、実施段階でも地域や区役所との連携により、「ジャズは橋をかける」のテーマどおり市内各地でイベントが開催され、施設の有効活用も図られている。</p> <p>今後、より一層の参加の拡大と効果の向上を目指すためには、ジャズ愛好家だけではなく、地域や年齢層も含めて幅広い市民にジャズの魅力を発信し、公演等をより楽しめるよう、運営方法や企画内容、周知方法を工夫していく必要がある。また、費用面については市民が音楽を気軽に楽しめる環境の提供や地域の賑わいといった、事業全体の趣旨を考慮しつつも、音楽公演プログラムについては収入を上げるための更なる取組や、費用対効果を考慮したより効果的な広報の実施などが必要である。</p>	
<p>提言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幅広い世代の参加に向けて、人材育成プログラムについては、開催日時やイベントの時間の長さを工夫する必要がある。また親子向けプログラムについては、参加者層に合わせた曲目を演奏したり、参加型企画を充実させるといった取組が必要である。 ・市内外からより一層の参加を促すため、地域連携イベントについては市外での実施も含めて内容を拡充する必要がある。また、事業の周知拡大を図るためSNS・口コミによる発信・拡散などを活用したり、イベントの担い手としての参加拡大に向けてボランティア活動を拡充するといった取組が必要である。 ・ジャズの愛好家のみならず幅広い市民にジャズの魅力を発信するため、イベントの企画段階からジャズの専門家に限らず多様なメンバーが参加することが必要である。また、公演の出演者やジャズに関する知識がない人でも公演に参加しやすくし、また公演に対する満足度を高めるため、公演によっては演奏する内容を事前に公表するよう出演者に働きかけるといった取組が必要である。 ・市民が音楽を気軽に楽しめる環境の提供や地域の賑わいといった事業全体の趣旨を考慮しつつも、音楽公演プログラムに関しては収入や来場者率を更に向上させる必要がある。そのためには、若年層向けチケットを販売したり、公演の規模や内容に応じて適切な会場を選定するといった取組を実施するとともに、公演の一層の周知を図るため、費用対効果を考慮したより効果的な広報を実施する必要がある。 	

平成28年度文化アセスメント実施結果報告書
2017(平成29)年9月
川崎市文化芸術振興会議

(事務局) 川崎市市民文化局市民文化振興室
〒210-0007 川崎市川崎区駅前本町11-2
電話 044-200-2029
FAX 044-200-3248